

2021年度 広安愛児園事業報告書

1 基本理念

「神の家族」というキリスト教精神に基づくホーム（小舎）性による異年齢、男女一緒の家庭的養護を通して、「共に生きる」「役に立つ心豊かな人」を目指した自立支援を行う。

2 基本方針

(1) 施設運営

ホーム担当制によるきめ細やかな関わりを継続し、様々な人間関係の中での家庭的養護（小規模グループケア、地域小規模児童養護施設）を実施することにより、子どもたちの福祉増進や自立支援強化に努めた。本年度も地域の有識者に苦情解決第三者委員を委嘱した。なお、2021年度もコロナ禍のあおりを受け、一時保護委託事業や、ショートステイ、トワイラトステイ委託事業の受け入れ、実習生の受け入れも限定的となった。同じくコロナ禍により体育館等なやグラウンドの開放、子ども会や地域の夏祭りのへの参加など、地域との連携、協力を大切にしましたところであったが、こちらもかなり限定的となってしまった。

(2) 児童支援

児童一人ひとりを承認し、自信を持たせることを重視し、そのことにより自己肯定感や自己有能感を少しでも持つことができるよう継続して働きかけを行った。また、施設内虐待が2年前に発生していることもあり、児童の権利擁護研修を行い、施設内虐待が決して発生しないよう、全職員で共有している。今後も基本理念を決して忘れることなく、子どもに寄り添う姿勢を常に心がけるよう努力している。

一方、要望・意見箱の設置や毎月の聞き取り調査などにより施設内虐待の防止を図るとともに苦情処理第三者委員会において、子どもや保護者から出された要望・意見を報告し、意見・助言をいただくことにより児童の基本的な人権の尊重や児童により良い支援に努めた。

(3) 職員育成

外部研修は年間研修計画に基づき実施の予定であったがこちらもコロナ禍によりほとんどの研修が中止若しくはオンライン研修となった。研修については、わざわざ現地に行かなくてもオンラインにより実施が可能となったため、できる限り、オンライン研修に出席するよう努めている。

3 重点目標

(1) 児童の生命安全を守る

2021年度、新型コロナの陽性者が2名確認された。8月の1名には濃厚接触者が8名、2月の1名には濃厚接触者がいたが、どちらも全員が陰性となったため事なきを得た。病院の先生からは多分クラスターが発生するであろうと言われていたので非常に緊張したが、ほんとうに幸いだった。今後もこのような事態は充分想定できるので、子どもたちにも職員にも負担をかけてしまうことになるが、十分に注意していきたい。

また、熊本市内のある施設でクラスターが発生し職員の応援要請を受けた。養護協議会でクラスター発生時の応援マニュアルができており、それにそって職員1名（看護師）を五日程度派遣した。その施設でのクラスターは既に落ち着いており、当園でもそういった可能性は充分にあるので、今回の職員派遣は非常に意義あるものだと考えている。

(2) 児童の権利擁護と施設内虐待の根絶

2の(2)でも触れているとおり、児童養護施設にとって最大の課題だと考える。常に全職員がこのことを意識し、また研修を実施して、実践に努めたい。

(3) ハラスメントのない職場環境

ハラスメントにはパワハラやセクハラ等多岐にわたるが、受付担当者が職員であるため、話辛い環境にあるのも又事実である。そこでアドバイザーの安井牧師にも受付担当者を依頼し快諾をいただくことができた。まだ正式な書面は交わしていないが、書面を交わした後は全職員に周知し、この制度がより良きものとなるよう運用していきたい。そして最終的にはハラスメントの一切無い、職員の働きやすい職場、長く努めることのできる職場環境を整えたい。

(4) 施設整備

松栄パナホーム様のご尽力により、長期賃貸での地域小規模児童養護施設「広崎ホーム」を2022年4月1日付けで開始予定である。それに伴い、本園は40名定数を30名へと削減する。

4 児童関係

(1)入所児童(本館) (2)榎ホーム

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	31	30	33	33	35	33	33	34	34	36	36	36	404	85.7
入所		2		2		1	2		2				9	
退所					2	1	1						4	
月末現員	31	33	33	35	33	33	34	34	36	36	36	36	409	86.5

(2)榎ホーム

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	68	94.4
入所				1									1	
退所														
月末現員	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	69	95.8

(3)福富ホーム

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	100
入所														
退所														
月末現員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	100

①入所 9名(一時保護含む)

②退所 4名(一時保護含む)

③児童内訳
 幼児 5名
 奨学生 18名
 中学生 7名
 高校生 13名
 措置延長 1名

(4)卒業生就職・進学状況

①高校卒業生
 k男 古閑牧場就職
 R子 熊本YMCA学院
 y子 九州スクールオブビジネス
 i子 福岡こども専門学院
 n男 熊本学園大学

②中学卒業生
 r子 熊本県立第二高校
 m子 開新高校
 m美 慶誠高校

5 職員関係

1	施設長	三嶋充裕	2 2	保育士	高宗 葵
2	事務員	濱田将平	2 3	児童指導員	田中 葵
3	統括主任	小澄康彦	2 4	保育士	山田麻衣
4	家庭支援専門相談員	松岡孝幸	2 5	〃	渡辺里紗
5	里親支援専門相談員	吉田 勝	2 6	〃	益元千賀子
6	心理療法士	洞田貫真理	2 7	児童指導員	朝位良美
7	看護師	北里美幸	2 8	保育士	宮本亜美
8	職業指導員	坂本あづさ	2 9	〃	坂田詞央理
9	栄養士	塚本朝美	3 0	〃	澤部麗美
1 0	主任児童指導員	宮川博司	3 1	児童指導員	鶴林康子
1 1	児童指導員	橋本智之	3 2	保育士	島田沙和
1 2	〃	石田 豊	3 3	〃	井上華奈
1 3	〃	元島竜吾	3 4	〃	田上綾乃
1 4	〃	工藤雄一	3 5	非常勤保育士	志垣久美子
1 5	〃	竹田翔太	3 6	〃	石嶺万起子
1 6	〃	橋下幸男	3 7	非常勤調理員	福島孝子
1 7	〃	上村賢一	3 8	〃	安部なつみ
1 8	主任保育士	本田友美	3 9	〃	内田春美
1 9	保育士	内田由美子	4 0	〃	上谷秋子
2 0	〃	内川春菜	4 1	嘱託医	戸山忠良
2 1	〃	溜淵可奈	4 2		

令和3年度 採用 橋下 幸男 (R3.4.1) 退職 磯崎真梨奈 (R4.1.31)
 上村 賢一 西浦 松子 (R4.1.31)
 磯崎真梨奈
 西浦 松子
 井上 華奈
 田上 綾乃

6 職員研修状況

研修名	研修出席者		開催日時	開催場所
	職名	氏名		
里親小中会議	里親 SW	吉田 勝	3/4/14	熊本市
事務担当者部会	事務員	濱田将平	3/4/15	熊本市
心理部会	心理療法士	洞田貫真理	3/4/16	オンライン
里親小会議	里親 SW	吉田 勝	3/4/28	熊本市
養協施設長会	施設長	三嶋充裕	3/5/12	熊本市
里親小会議	里親 SW	吉田 勝	3/5/26	熊本市
性的虐待シンポジウム	心理療法士	洞田貫真理	3/6/9	オンライン
里親連絡会	里親 SW	吉田 勝	3/6/9	熊本市
看護師連絡会	看護師	北里美幸	3/6/9	オンライン
熊本県養協協議会講演会	主任指導員	宮川博司	3/6/14	オンライン
相談援助部会定例会	FSW	松岡孝幸	3/6/15	オンライン
〃	里親 SW	吉田 勝	3/6/15	オンライン
職業指導員定例会	職業指導員	坂本あづさ	3/6/17	オンライン
CW 部会研修会	主任保育士	山口友美	3/6/22	オンライン
〃	保育士	鶴林康子	〃	〃
〃	保育士	井上華奈	〃	〃
〃	保育士	田上綾乃	〃	〃
里親小会議	里親 SW	吉田 勝	3/6/23	オンライン
日キ連研修会	施設長	三嶋充裕	3/6/28	オンライン
〃	児童指導員	鶴林康子	〃	〃
〃	児童指導員	朝位良美	〃	〃
里親基礎研修	里親 SW	吉田 勝	3/6/30	熊本市
里親小中会議	里親 SW	吉田 勝	3/7/28	〃
里親登録前研修	里親 SW	吉田 勝	3/7/16	〃
九州児童福祉施設研究大会	施設長	三嶋充裕	3/8/10	オンライン
〃	児童指導員	田中 葵	〃	〃
〃	児童指導員	元島竜吾	〃	〃
〃	児童指導員	竹田翔太	〃	〃
〃	保育士	坂田詩央理	〃	〃
里親小会議	里親 SW	吉田 勝	3/8/25	オンライン
接遇講習会	保育士	井上華奈	3/9/1	オンライン
里親中会議	里親 SW	吉田 勝	3/9/8	熊本市
職業指導員連絡会	職業指導員	坂本あづさ	3/9/16	オンライン
CW 部会研修会	児童指導員	工藤雄一	3/10/12	オンライン
〃	児童指導員	鶴林康子	〃	〃
〃	保育士	山口友美	〃	〃
〃	保育士	高宗 葵	〃	〃
新任職員現人訓練	児童指導員	上村賢一	3/10/16	オンライン
〃	保育士	井上華奈	〃	〃
〃	保育士	田上綾乃	〃	〃
ハラスメント防止研修会	統括主任	小澄康彦	3/10/21	愛児園体育館
〃	主任指導員	宮川博司	〃	〃
〃	保育士	内川春菜	〃	〃
〃	保育士	高宗 葵	〃	〃
職業指導員連絡会	職業指導員	坂本あづさ	3/10/1	愛児園給食棟
職員向けハラスメント講習会	主任保育士	山口友美	3/10/22	オンライン
相談援助部会定例会	FSW	松岡孝幸	3/11/2	オンライン
〃	里親 SW	吉田 勝	〃	〃

研修会	研修出席者		開催日時	開催場所
	職名	氏名		
里親小中会議	里親 SW	吉田 勝	3/11/10	熊本市
ボランティア活動推進研修会	児童指導員	元島竜吾	3/11/10	オンライン
里親小会議	里親 SW	吉田 勝	3/11/24	オンライン
ビジネスマナー研修会	保育士	田上綾乃	3/12/1	熊本市
里親小中会議	里親 SW	吉田 勝	3/12/8	熊本市
性教育研修会	保育士	石嶺ちひろ	3/12/13	熊本市
〃	保育士	坂田詞央理	〃	〃
職業指導員連絡会	職業指導員	坂本あづさ	3/12/16	オンライン
看護師連絡会	看護師	北里美幸	3/12/21	オンライン
相談援助部会連絡会	FSW	松岡孝幸	3/12/21	オンライン
〃	里親 SW	吉田 勝	〃	〃
里親小中会議	里親 SW	吉田 勝	4/1/12	熊本市
日キ連中堅研修	保育士	石嶺ちひろ	4/1/18	オンライン
施設における性の安全会	心理療法士	洞田貫真理	4/1/24	オンライン
里親小中会議	里親 SW	吉田 勝	4/2/15	オンライン
心理部会総会研修会	心理療法士	洞田貫真理	4/2/22	オンライン
CW 部会総会研修会	保育士	山口友美	4/2/15	オンライン
〃	保育士	益元千賀子	〃	〃
CW 部会役員会	保育士	山口友美	4/3/6	オンライン
里親小中会議	里親 SW	吉田 勝	4/3/9	オンライン
性の相談会	心理療法士	洞田貫真理	4/3/15	オンライン
里親相談会	里親 SW	吉田 勝	4/3/23	オンライン
神戸児童間性暴力研究会	心理療法士	洞田貫真理	4/3/26	オンライン

令和3年度 事業報告（自立支援）

令和4年3月31日

1. 日常生活支援

(1) 生活全般

今年度もコロナ禍の影響は大きかった。一昨年度から継続して取り組んでいることとして、新型コロナウイルス感染防止対策がある。手洗いうがいの励行と児童と職員の健康観察及び検温、建物内の消毒、外出時のマスク着用を徹底した。それに加えて、児童及び職員に行動制限を呼び掛け協力を依頼した。現段階では、児童1名と職員1名の感染が発生した。幸い感染拡大にはつながっていない。引き続き、園全体で感染防止対策に取り組み感染拡大防止に心掛けていきたい。

自立支援については、今年度も自立支援計画の評価時期に合わせて、各ホームがケース検討会議の場で計画や評価内容を発表し、個々の子どもたちの生活・自立支援に職員全体であたるという意識づけを行った。また、今年度は権利擁護の観点から、児童の意思を尊重する目的で、部分的に自立支援計画で取り組む課題を児童と一緒に検討した。次年度は全体的に取り組めるように意識を高めていく。

子どもの安心・安全について、児童の交通事故が1件発生した。児童に怪我はなかったが、原因は児童の不注意で起きた事故であったため、改めて児童に対して交通ルールについて指導を行った。その他には、児童が対職員や他児童に対して暴言や暴力を行い、生活の場を脅かす結果となった。逆に、職員が児童に対して指導がエスカレートし、児童の顔に傷を負わせた事案が発覚した。児童の保護者と関係機関に報告と謝罪を行ったが、再発防止に努めるとともに、全職員に児童の権利擁護について再度意識付けを行った。

子どもたちからの要望や意見については、要望解決第三者委員会を定期的に開催し、内容を開示した上で、できるだけ要望や意見に沿うことができるよう、あるいは要望に沿えない場合もより適切な解決が図れるよう努めた。

(2) 学校生活

今年度は、熊本県の新型コロナウイルス感染リスクレベルと益城町教育委員会の感染対策基準に基づき、園独自で登校基準を厳しく設けて体調不良者が出た場合には発熱に限らず、腹痛や頭痛といった症状時も登校を自粛し自宅待機の対応を取った。

○幼稚園

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、担当者間の対面での個別懇談は行わず、主に連絡帳を通じて幼稚園と園が相互に情報交換を行った。

○小学校

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、月に1回のペースで実施していた懇談会は行わず、担当者間で必要に応じて連絡帳や電話連絡を主な手段として情報交換を行った。

○中学校

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、担当者間で必要に応じて情報交換と情報共有を行った。

○高等学校

担当職員が担任教師と随時電話で情報交換を行いながら支援にあたった。今年度も高校を卒業する児童は5名で、4名が大学や専門学校に進学し、1名は県内の牧場に就労した。4名の児童は学校の寮や賃貸アパートで独り暮らしを予定しているが、1名の児童は、グループホームに入所するまでの間措置延長して園で継続支援を行っている。

2. 児童会・高校生会の実施

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、感染リスクレベルに応じて屋外で児童会を行った。内容は例年同様、学校の長期休業前後の生活の切り替え時期に、生活上の約束事を確認することを目的として実施した。

高校生会は児童会とは別に位置付け、高校生活が学業を本分とするもので実社会への自立準備の期間であることについて確認する機会とした。また、高校生の園内における位置づけを明確にしながら、下級生達のよき手本となるよう職員の期待感も含めてアドバイスを行った。アルバイトや携帯電話の所持についても、高校生として自覚を持ったうえで適切に使用するよう指導を行った。そして、これらのことを職員からの指示や制限と捉えるのではなく、それを踏まえて自らの行動や時間を主体的に創造すると共に、自分の行動には責任を持つように意識付けを図った。

3. 学習支援

(1) 公文式学習

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、感染リスクレベルに応じて学習時間を設けた。学習中は換気をし、マスクの着用と児童同士の間隔を広げて感染防止対策に努めた。

(2) 学習支援ボランティア

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、感染リスクレベルに応じて対面での学習から「ZOOM ミーティング」を利用したリモートでの学習に切り替えながら行った。

4. 情操教育支援

今年度も情操教育の一環として、また将来自分が趣味として長く続けていくことができるものを身につけることを目的に園全体として推進した。今年度は、昨年から継続して1名の児童が地域のスポーツクラブに所属していたが、コロナ禍の影響で年間を通じて活動への参加は自粛してもらった。

5. 交通安全教室の実施

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、外部講師は招かずに年齢ごとに内容が違うDVDの鑑賞を行った。鑑賞後、児童がそれぞれ感想を綴った。

6. 避難訓練等安全管理

毎月1回、各ホームと厨房、園内保育所を出火想定場所として避難訓練を実施した。訓練では、児童の避難誘導を最優先としているが、可能な範囲で消火活動を同時に行えるように役割分担に心掛けた。また、園内設置遊具及び危険箇所等については毎月点検しチェックを行った。

7. 性教育

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、異性あるいは異年齢ごとに児童を集めての実施は控えた。必要に応じて、ホーム単位や新規入所児童にスポットを当てて、性教育のグループワークを実施した。また、卒園を控えた高校3年生の児童に対して対人関係のスキルアップや避妊方法、異性との交際をテーマとしたワークを実施した。

8. 情報教育

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策に伴い外部講師を招いての研修会は行わなかった。但し、新規で携帯電話を購入する児童に対して、個別に情報提供を行った。

9. 地域行事・招待行事への参加

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、年間を通して地域行事への参加と外部からの受け入れを行わなかった。クリスマス行事に関しても、各ホーム単位で児童と職員のみで会食を行った。

10. 高校生自立支援

高校生の自立支援については、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、年間を通してNPO法人ブリッジフォースマイルの協力により、「ZOOM ミーティング」を利用してリモートでの学びの場を設けた。

11. アルバイトについて

今年度は、新型コロナウイルスの影響の中、社会的な自立訓練と卒園後の生活費や学費の貯蓄を目的として、感染防止対策を十分に意識させながら高校生にアルバイトを許可した。但し、リスクレベルによっては、バイト先に許可をもらってアルバイトを休ませてもらおうといった対応を取った。

12. 携帯電話について

今年度は新規に3名の児童が携帯電話を契約し所持した。昨年と同様に、通話料の支払い問題や架空請求、友人・異性間のトラブルなど大きな問題は報告されなかったが、週末には夜遅くまで話し声が響いていたり、翌朝遅くまで寝ているなど生活リズムが乱れる状況が見られた。

以上

令和3年度 事業報告（行事・会食等）

令和4年3月31日

	行事名	参加者	活動内容
4月	進級入学祝い		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	広安西小学校 家庭訪問	愛児園：担当職員 小学校：担任教師	新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、担任教師が来園し個別に各ホームを訪問して、玄関先で担当職員と短時間での顔合わせを行った。
	益城中学校 家庭訪問 (15日)	愛児園：職員1名 中学校：全職員	新型コロナウイルス感染防止対策に伴い家庭訪問は行わず、代わりに主任児童指導員が益城中学校に出向き、中学校教職員に対して愛児園の概要を説明した。
	創立記念礼拝		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	卒園生の会		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
5月	ダルマの会杯 球技大会		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	こどもの日会食		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
6月	花の日合同礼拝		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い不参加。
	ボランティア米田植え		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い不参加。
7月	プール開き		プールの水漏れにより実施できなかった。
	熊本県児童福祉 施設球技大会 (10日)	小4～高校生女兒 監督職員	新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、大会を縮小し交流試合という形で実施した。児童に参加希望を募り女子のバレー競技のみの参加となった。男子の野球競技は希望者がいなかったため不参加となった。
	JCHIP インターシップ		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
8月	小峯地区夏祭り		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	夏休みさよなら パーティー		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。代替行事として、夏休み終了時期に園内の中庭で全員でBBQを行った。
10月	熊本平成マーカークラブ 交流会		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	熊本県養護施設 秋季スポーツ大会 (30日)	小1～高校生男女 監督職員	男子はフットサル競技、女子はバドミントン競技で参加した。結果は、男女ともに残念ながら予選で敗退となったが、女子個人の小学5年生の部で準優勝を果たした。

11月	小児祝福式 健軍教会バザー		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	登山		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
12月	教会学校合同 クリスマス礼拝		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
	クリスマス祝会 (25日)	全児童 全職員	新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、児童と職員のみで実施した。安井牧師を招き体育館で礼拝を行った後、各ホームで会食を行った。
	餅つき (26日)	全児童 全職員	例年通り、竈の火力不足を補うために調理室でもち米を蒸した。児童も職員もほぼ全員が参加することができた。児童も積極的に餅を搗いたり捏ねる体験をして良い思い出の行事となった。昼食はおこわと豚汁を野外で食べた。
	年末大掃除	小学生～高校生 勤務職員	学校が冬休みに入ると同時に、各ホームごとに児童と職員で大掃除に取り掛かり、日頃児童が利用する体育館とコイノニア、パウラスホームを各グループに分かれて27日に掃除を行った。
1月	祝膳・初詣 (1日)	未帰省児童 勤務職員	正月帰省期間に帰省が困難な子ども達とコイノニアで祝膳。新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、職員の手作り料理は持ち寄らず、ホテルキャッスル等から寄贈のおせち料理のみをいただいた。祝膳後は初詣に出掛けた。人混みを避けるために近隣の神社で初詣を行った。
	児童外出行事 (3日)	未帰省児童 勤務職員	少人数でグループを作り、人手が少ない場所を選んで外出を行った。それぞれのグループが外食や温泉、買い物などの計画を立てて一日楽しく過ごした。
	児童新年会		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い中止。
3月	園内保育所 卒園式 (25日)	幼児 担当職員	園内保育所利用の幼稚園年長児2名の卒園を祝って、保育証書の授与と記念品の贈呈を行った。新型コロナウイルス感染防止対策として、式典は行わず園長と担当職員1名の参加で実施した。
	ホーム活動	全児童・担当職員 (ホーム単位)	各ホーム単位で1人2万円の予算で実施した。コロナ禍の影響で実施できなかったホームもあったが、人混みが予想される大型テーマパークや観光地を避けて、キャンプ場や温泉地など個室が確保できる場所を選んで思い出作りを最優先に計画を立てて実施した。